城崎・港地域　小中学校統合について　地区説明会　会議録

■開催日　2026 年 10 月 28 日（水）19：00～20：05
■会　場　城崎振興局　２階　大会議室

■主な質疑応答

1. 区域外就学の猶予について

質問・要望

・港地区在住で、子どもは区域外就学で城崎小学校に通っている。
・2021 年度の説明会で「2028 年度に中学校を統合する」と聞き、その前提でライフプランを組んできた。
・統合が遅れる場合、校区どおり港中学校へ進むことになってしまう。城崎中学校へ進学できるよう、猶予や配慮をお願いしたい。
・現在は、毎年申請して校長の意見書を添え、許可を受けている。「やっていけそう」と判断されれば許可が下りなくなるのではと心配している。

回答（学校教育課）

・中学校入学の時点でも、学校・保護者と相談し、区域外就学が必要と判断されれば、城崎中学校への進学は可能。
・この場では「優遇」を約束することはできない。ただし、子どもの状態を学校と保護者から聞き取り、その子にとって何が必要かを共に考えることは約束する。

2. 学校規模・選択制・人口減少への対応

意見

・中学校は生徒数が 300 人超から約 70 人に減り、活気がないと感じる。港と城崎の統合はやむを得ない。
・大規模校と小規模校には一長一短がある。「大きな学校で友達を増やしたい」「地域の小さな学校に通わせたい」を、保護者が選べる仕組みを検討してほしい。

質問

・市の人口推計では、2040 年に城崎の人口は約 3 分の 1 減る。統合しても 10 年後に同じ問題が起きるのではないか。

回答（教育施設課）

・計画では「旧市町域に学校を 1 つ」を基本としている。豊岡市は面積が広く、通学時間の面からも、各地域の中心に学校を残す方針。
・学校の選択については、事情がある場合に申請し許可を受ける「校区外就学」の制度で対応している。ただし、希望者全員が他校へ行くと学校側の受け入れ準備や通学手段（送迎）の問題が出る。原則は居住校区への進学で、個別案件は許可基準に沿って対応する。

3. 防災面の配慮

意見

・既存校舎を活用する方針とのことだが、能登半島地震では日本海側でも大きな津波が観測された。津波などへの防災面も検討時に考慮してほしい。

（回答は不要とのことで、市からの回答はなし）

4. 統合後の再統合の見通し

質問

・今年度の市内出生数は約 300 人と聞く。統合しても再び複式学級が生じ、また統合の話が出てくる時期の予測はあるか。

回答（教育施設課）

・子どもの数は減るが、統合後は当面、複式学級が生じる見込みはない。

・その後の統合の要否は、通学距離など広い豊岡市の事情も含めて今後の計画で検討する。

・地域に 1 校、通いやすい場所に学校があることが必要と考えている。

5. 子どもへの説明と「決定済み」の噂

質問

・子どもたちが「中学校になったら港に行く」とまことしやかに話している。教育委員会が外堀を埋めようとしているのか、白紙なのか。

要望

・どう決まるにせよ、子どもにも各学校で十分に説明してほしい。

回答（永井教育次長）：

・外堀を埋めることは一切なく、白紙と考えてよい。

・当初計画では小学校の統合先は城崎小学校を想定していた。今回、4 校を対象に小中一貫校の要望・提言があったため、場所は複数の要素で改めて検討する。

・子どもの数が急減するため、新築は全く考えていない。

以上